



はじめに

震災年 2011 年度から福島
保養外遊び支援として、自然
豊かな南会津伊南へ放射能度
の高い地域の子どもを招く活
動を行なってきました。

2016 年度より、地域の活
性化と次世代の育成を主眼に
し、南会津町の子どもたちと、
野外学校 FOS の一般公募で、
都心部で育つ子どもと家族と
のコラボへ。有意義な出会い
と農村体験の場としてあたた
かな交流が生まれています。
今年は第 8 回目、伊南はもう
一つの故郷。里帰りな雰囲気
で、今年も笑顔溢れるサイ
コーに楽しい 3 日間になりました！

Summer いな GO ! を共に創っています

いな夢クラブ

伊南は寒い冬を迎えようとしています。

眼前に広がる辺り一面の銀世界は、夏の清らかな流れへと繋がる、大切な季節もあります。

照りつける太陽、キラキラ輝く水面、ほほを撫でる風、響き渡る子供たちの笑い声。

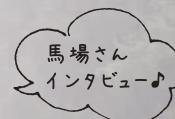
私たちにとって Summer いな Go ! は、新たな出会いの場であるとともに、地域を見つめ、

自分たちの立ち位置を再確認する大切な時間です。

今年も、沢山の出逢いと喜びをありがとうございました。

野外学校 FOS

自然を舞台に人・自然・わたしに出会うをテーマに様々な活動を展開しています。南会津伊南との出会いは伊南教育委員会主催の雪中ギャザリングから 25 年来のおつきあい。都会で育つ我が子も伊南のどかな田園風景や豪雪にふれて育ってきました。サマーいなでは子どもも大人も一つの大きな家族として過ごしていきます。小さな子は頼りになるお兄ちゃんの様子を見様見真似で遊んでいきます。しぜんと田舎と都会の文化交流が起き、そこに伝承が生まれています。自然に根ざし、超本格的な自然遊びに育ってきた伊南衆と冒険活動をプロデュースしている FOS のコラボ。大人も子どもも夢中になる斬新で本質的な遊びは、いまを生きるチカラ！



INA キャンプビレッジ

キャンプ中、夜のライトに集まった虫の清掃を早朝から行ってくださっている馬場オーナー。毎年、ホントにお世話になっています！

そんな馬場さんに子どもの頃の遊びを聞いてみました。

「子どもの頃の遊びっていうのは、ほとんどが、食べるものを取りに自然に入ってたよね。

あけびやサルナシ、魚付いたりね。学校の授業でも一日中山菜採りでワラビ、山ブドウをとったりね。

秋は山に絵を描きに行ったりしてたよ。」

馬場さんからお話を伺いながら、ガキ大将たちが山を駆け回り、樹に上り、お猿さんみたいに収穫を喜んで、ハリ切っている子どもの様子が浮かんできました。自然に身体が鍛えられ、山の知識も育み、その土地に生きる賢さを山から教えてもらったことでしょう。いいねー♡

こころ からだ いのち
子どもたちの幸せな未来を創造する
キャンプを支えてくださったみなさま
ありがとうございました。



いなオオクワガターム



いな郷土料理研究会



INA キャンプビレッジ



創健社



コールマン ジャパン株式会社

Feel Our Soul
野外学校 FOS

野外学校 FOS

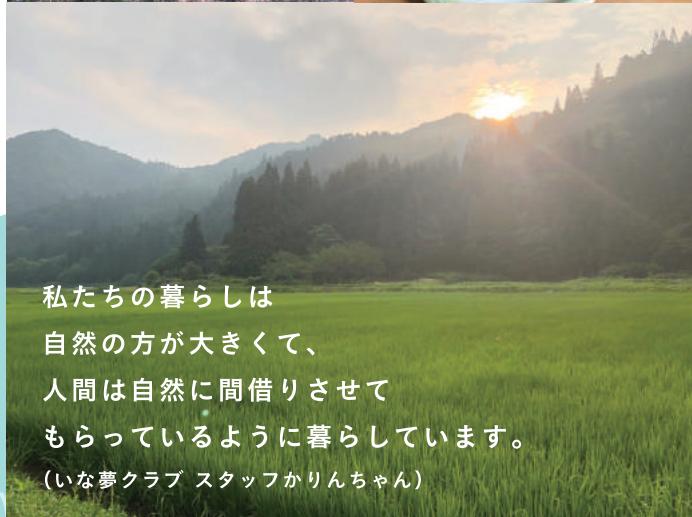
いな夢クラブ

いな夢クラブ

みんなが伊南を愛してます。

そんな人が集う処。サマーいな。

Tree Climbing



くれるから」郷土料理研究会のおかあさんの言葉だ。

私の心には伊南の美しい田園光景と清々しい緑の風が吹いている。

戸高 優美

伊南はなにもない処だけど自然がある。どうか一つ、自分がいいなって思うものを見つけてください。それはきっと、どんな時もあなたを励まして

summerいなは子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が関わり、誰かが誰を幸せに湧いて元気になる。

豪雪の厳しい冬に暮らし、相互扶助で支え合う人々の心の絆が根底にある。私たちは夏の数日、伊南の自然に存分にふれ、手仕事の賜物である収穫を頂く。心も身体も活力が湧いて元気になる。

参加者より

ありがとうを込めて



伊南での3日間、美しい自然の中で、夏の遊びを満喫しました。本当にめくるめくまばゆい夏の日々、最高に幸せでした！

遊びに熱中し、おなかいっぱいご飯を食べて、川の音を聞きながら眠る。太陽の光で起きて、すがすがしい空気を思い切り吸い込む。夜は暖かな焚き火を囲んで、親しくなった人たちと語り合う。合奏する。星空を見上げる。ゆったりとした素敵な時間が忘れがたく子どもと何度も一緒に遊びました。

FOSで参加された方、いな夢クラブの方々ともいろいろお話をることができました。学校のこと、今回のキャンプの食事のこと、地酒のエピソード、震災や原発事故で起きたことなどです。キャンプファイヤーの始まりでボンバーがご友人を亡くされた話をされましたね。現地の方々の悲しみ、苦しみはいかばかりだったのだろうかと、思いを馳せました。

震災で起きてしまった受け入れがたい現実を、苦しい思いを抱えながら日常生活の中で受け入れて過ごしていくこと。復興は短期間で成し遂げられることではなく（日々の中で傷ついた心身がようやく癒えていくように）長い時間かけて人々の暮らしが回復していく道のりのことを意味するのかな、と帰りの電車の中で考えていました。

参加された方々それぞれに、ふるさとに対する深い愛を持つおられるのだな。ということ、皆さんのお言葉のあいまから伺い知ることができました。

またぜひ伊南を訪れて、豊かな自然の中で遊び、眠り、食べ、再会した皆さんと語り合う機会を楽しみにしていきます。

小林悦子さん



そこからはじまる何かがあるはずだから。

私は出来ること。

それはきっと、子供達と自然の中に入ること。

一緒に感じること。

そこからはじまる何かがあるはずだから。

石川美香さん

いつでもここで待っています



いな衆文ちゃんより

「ある夏の日」

一日の始まりは、ラジオ体操。

時間になると、近所の広場に子供たちが

集まり「イチ」「二」「サン」・・・。

朝陽を浴びると自然と体が目覚めてくる。

セミの大合唱が始まると、友達を誘つてヤス（魚を突く道具）を片手に伊南川へ。水中を覗けば、流されるだけの私たちがあざ笑うかのように踊る鮎。どうしたらお兄ちゃんたちのように獲物を仕留められるのか？見よう見まねを繰り返しながら、魚たちとの駆け引き。



宿題はそっちのけで、暗くなるまで駆け回り、そして、日焼けした肌はどれだけ遊んだかを表す勲章のようなもの。それが、私たちが子供だった頃の日常であり、毎日の遊びが自然からの学びの時間でした。

Summer いな G o ! は、そんな私たちにとつても、学びと気づきの場であつた。宿題はそっちのけで、暗くなるまで駆け回り、そして、日焼けした肌はどれだけ遊んだかを表す勲章のようなもの。それが、私たちが子供だった頃の日常であり、毎日の遊びが自然からの学びの時間でした。

今日の Summer いな G o ! へと続くきかつけとなった東日本大震災。被災した地域の人たちは避難生活を余儀なくされ、子どもたちは屋外に出ること自体が制限されてしまいました。幸いにして、私たちが暮らす地域は被害を免れましたが、温かいご飯を食べ、温かい布団でゆっくり眠り、陽の光を全体で感じること。そんな何気なかった日常の有難がたさを感じました。

近年は、50年に一度、100年に一度と称されるような大きな自然災害が多発しています。自然の力を前にして私た



今、私たちに出来ること

子どもたちが夢中になつて遊ぶことが出来る環境を守ること。

感覚や知識は一生も

供たちの未来に繋がるものであつたら幸いです。



り、大切な時間となっています。

現代の子供たちを取り巻く環境は、昔から想像もしえない程に機械化や高度情報化が進み便利になりましたが、それと共に遊びの質も変化しています。「外遊びこそが全て！」とは言いませんが、子供たちにとって今の環境は、幸せで豊かな暮らしと言えるのだろうか？と考えずにはいられません。

この夏の日、時間になると、近所の広場に子供たちが集まり「イチ」「二」「サン」・・・。朝陽を浴びると自然と体が目覚めてくる。セミの大合唱が始まると、友達を誘つてヤス（魚を突く道具）を片手に伊南川へ。水中を覗けば、流されるだけの私たちがあざ笑うかのように踊る鮎。どうしたらお兄ちゃんたちのように獲物を仕留められるのか？見よう見まねを繰り返しながら、魚たちとの駆け引き。

宿題はそっちのけで、暗くなるまで駆け回り、そして、日焼けした肌はどれだけ遊んだかを表す勲章のようなもの。それが、私たちが子供だった頃の日常であり、毎日の遊びが自然からの学びの時間でした。

Summer いな G o ! は、そんな私たちにとつても、学びと気づきの場であつた。宿題はそっちのけで、暗くなるまで駆け回り、そして、日焼けした肌はどれだけ遊んだかを表す勲章のようなもの。それが、私たちが子供だった頃の日常であり、毎日の遊びが自然からの学びの時間でした。

今日の Summer いな G o ! へと続くきかつけとなった東日本大震災。被災した地域の人たちは避難生活を余儀なくされ、子どもたちは屋外に出ること自体が制限されてしまいました。幸いにして、私たちが暮らす地域は被害を免れましたが、温かいご飯を食べ、温かい布団でゆっくり眠り、陽の光を全体で感じること。そんな何気なかった日常の有難がたさを感じました。

近年は、50年に一度、100年に一度と称されるような大きな自然災害が多発しています。自然の力を前にして私た

今、私たちに出来ること

子どもたちが夢中になつて遊ぶことが出来る環境を守ること。

感覚や知識は一生も

供たちの未来に繋がるものであつたら幸いです。



ちはあまりにも無力ですが、命の危機に直面した時、最後に身を守るのは、自身の「生きる」ための判断です。言葉にしまつているのではなく、いかと感じています。人から与えられる

のではなく、自身の経験から得られた感覚から得られるものが、子供たちの未来に繋がるものであつたら幸いです。



G o ! での遊びから得られるものが、子供たちの未来に繋がるものであつたら幸いです。

Summer いな G o ! は、そんな私たちにとつても、学びと気づきの場であつた。宿題はそっちのけで、暗くなるまで駆け回り、そして、日焼けした肌はどれだけ遊んだかを表す勲章のようなもの。それが、私たちが子供だった頃の日常であり、毎日の遊びが自然からの学びの時間でした。

今日の Summer いな G o ! へと続

くきかつけとなった東日本大震災。被災した地域の人たちは避難生活を余儀なくされ、子どもたちは屋外に出ること自体が制限されてしまいました。

幸いにして、私たちが暮らす地域は被害を免れましたが、温かいご飯を食べ、温かい布団でゆっくり眠り、陽の光を全体で感じること。そんな何気なかった日常の有難がたさを感じました。

近年は、50年に一度、100年に一度と称されるような大きな自然災害が多発しています。自然の力を前にして私た

今、私たちに出来ること

子どもたちが夢中になつて遊ぶことが出来る環境を守ること。

感覚や知識は一生も

供たちの未来に繋がるものであつたら幸いです。



この夏の日、時間になると、近所の広場に子供たちが集まり「イチ」「二」「サン」・・・。朝陽を浴びると自然と体が目覚めてくる。セミの大合唱が始まると、友達を誘つてヤス（魚を突く道具）を片手に伊南川へ。水中を覗けば、流されるだけの私たちがあざ笑うかのように踊る鮎。どうしたらお兄ちゃんたちのように獲物を仕留められるのか？見よう見まねを繰り返しながら、魚たちとの駆け引き。

宿題はそっちのけで、暗くなるまで駆け回り、そして、日焼けした肌はどれだけ遊んだかを表す勲章のようなもの。それが、私たちが子供だった頃の日常であり、毎日の遊びが自然からの学びの時間でした。

今日の Summer いな G o ! へと続くきかつけとなった東日本大震災。被災した地域の人たちは避難生活を余儀なくされ、子どもたちは屋外に出ること自体が制限されてしまいました。幸いにして、私たちが暮らす地域は被害を免れましたが、温かいご飯を食べ、温かい布団でゆっくり眠り、陽の光を全体で感じること。そんな何気なかった日常の有難がたさを感じました。

近年は、50年に一度、100年に一度と称されるような大きな自然災害が多発しています。自然の力を前にして私た

今、私たちに出来ること

子どもたちが夢中になつて遊ぶことが出来る環境を守ること。

感覚や知識は一生も

供たちの未来に繋がるものであつたら幸いです。



いなごはん帖

いな郷土料理研究会



さくさく汁

材料

- じゃがいも
- 大根
- 人参
- ごぼう
- きのこ（しめじ）
- 豆腐
- ねぎ
- かつお節だし
- みそ
- 料理酒

作り方

- ① 大根、人参はいちょう切り、ごぼうはさざがきにする。
じゃがいもは小さめに切る。
- ② 大根、人参、ごぼう、しめじ、豆腐が少し煮えてからじゃがいもを入れる。
- ③だし汁と料理酒、刻んだねぎも入れてみそで味をつける。



きゅうりの漬けもの

材料

- きゅうり
- 青しその葉
- 食塩
- 料理酒

作り方

- ① しその葉は切って食塩を少し入れた水に浸して、あく抜きをする。
- ② キュウリを切つたらあく抜きをしたしその葉を水切りして、食塩と料理酒で漬ける。



甘梅漬おこわ

材料

- 甘梅漬
- もち米
- 白梅酢

作り方

赤しその葉でほんのりと甘しそばく漬けた梅をおこわに混ぜる。

材料

- わらび漬
- にんじん
- しょうが
- めんつゆ

作り方

- ① わらび漬を水で戻す。
- ② にんじん、しょうがは千切り。
- ③ ①と②をませ合わせめんつゆで味付けをする。



編集後記

写真や文章から伝わってくる伊南の熱気を感じて私自身、自分が大切にしたい暮らしや生き方の軸がなんだったか、紙面を作りながら振り返させていただきました。みなさまにも、伊南のあたたかい風をお届けできましたら幸いです。

編集・ことり舎

発行日
二〇一九年十二月
発行者
南会津いな夢クラブ
制作
野外学校 FOS